

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		生涯学習センター管理運営				所管	教育委員会 生涯学習課		
事務事業の概要	行政計画	なし	事業NO.		計画事業名	事業の開始・終了年度			
	長期総合計画体系	[基本目標]							
		[小 柱]							
		[施 策]							
	根拠法令等	条例・規則		〔法令等名〕	生涯学習センター条例及び条例施行規則				
	事業対象	区内在住・在勤者等の施設利用登録をした個人及び団体							
	事業目的	区民が地域活動や学習活動に参加でき、快適に利用できる施設の管理運営を目的とする。							
	事業内容	生涯学習センターの管理運営 施設の貸出(ミレニアムホール及び各会議室等)及びマルチメディアルームの管理運営							
委託の有無	一部委託		委託内容	受付・設備・清掃・警備					
補助金の有無	なし								
事務事業の実績	種 別	指標の名称 (単位)		目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度		
	活動指標	開館日数 日		331	332	331	330		
	成果指標	利用人数 人		330,000	310,858	348,122	313,957		
		利用率 %		68.0	63.0	66.0	67.0		
	決算額 (単位：千円)				215,714	225,996	206,557		
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)			28,022	25,498	22,547		
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)			208,582	219,204	206,449		
		その他のコスト (扶助費・補助費など)			7,132	6,792	109		
		総経費			243,736	251,494	229,105		
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)			50,870	49,643	49,770		
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0		
一般財源 (区負担額)			192,866	201,851	179,335				
前年度から改善した事項		経年劣化により増加傾向にある施設の修理・保守について、できるかぎり利用者に影響が出ないよう、費用や日程等の調整を行った。							
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	サークル・学習活動をするうえで、多くの方が利用する施設として、ニーズ・重要性は依然高い。利用者の利便性を考慮した施設維持管理の必要がある。						
	効率性	3	会議室やホールの利用率は安定しており、受付等の委託による事務の効率化が図られている。経年劣化により、修理・保守のための工事費や修繕料は増加傾向にあるが、その他のコストに大きな変化はない。						
	手段の適切性	3	利用率が安定してきた一方、修理や保守点検等の日程、時間確保が困難となっている。また、同様に必要頻度も増加しているため円滑な維持管理に苦慮している。						
	目的達成度	4	利便性の高さや利用方法等が利用者に定着、理解されてきたためか、利用率が増加しており、25年度目標は達成。利用人数、利用率ともに新たな目標を定めた。						
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		
利用率の増加から、台東区の生涯学習の拠点としての役割を担っていることが分かる。より多くの方に施設を快適に利用してもらうため、必要な修理・保守を行い、円滑な施設運営を行っている。						維持			